

やまぐちっ子 学力向上だより

第 5 5 号 H26. 1. 23

山口県教育庁義務教育課

山口県学力定着 状況確認問題の 結果公表

10月30日（水）を基準日として実施した「山口県学力定着状況確認問題」の結果をお知らせします。

結果の概要については、添付している「平成25年度学力定着状況確認問題の結果について【概要版】」をご覧ください。また、詳細については、山口県教育庁義務教育課のホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/kakunin/top.html>

今回は、教科の問題結果から見られる特徴と、今後の取組、教科の結果と質問紙調査の回答との関係の一部について、ご紹介します。

教科の問題結果 から見られる特 徴

- 基礎的な内容を問う問題については、おおむね成果が見られるが、記述式の問題や基本的な内容を問う問題の一部に、依然として課題が見られる。

改善状況が見ら れる問題

【問題例】 小数の減法の計算について改善状況が見られる。

$$1.1 - 0.28$$

小学算数各学年の平均正答率

4年 61.9% 5年 63.8% 6年 73.1%

※ H24全国調査（4.6-0.21の計算）山口県平均正答率 59.2%

位をそろえず、末尾をそろえて計算しようとし、引けないと悩んだ児童はいないでしょうか。小数のかけ算と混同し、0.082と解答した児童はいないでしょうか。



【今後の指導】

課題改善のためには、復習の時間を設定し、位をそろえて計算することを確認したうえで同様の問題を行うことは当然ですが、小数の計算の理解を深めるため、以下のような指導を行うことが重要です。

- 誤った筆算の処理から誤りを指摘したり、正しい計算の仕方を説明したりする活動を行う。
- 1.1は1.10のように0を書いて筆算をするなどを徹底する。
- 4.6-0.21などの計算では、1より小さい数を引くので、答えは4に近くなるというように、数の大きさについての感覚を用いて計算結果を見積もることができるようにする。

依然として課題が見られる問題

【問題例】 記述式の問題について、依然として課題が見られる。

○ けいたさんは、とんぼのことがもっと知りたくなくて、学校図書館へ行きました。本のだい名を見ながら、どの本を読もうかまよっていましたが、次の中から読む本を一さつきめました。

本のだい名)
 ア トンボ図かん
 イ トンボのふしぎ
 ウ とんぼ・やご〜くらしとかいかた
 エ つくってみよう紙とんぼ

あなたがけいたさんなら、どの本を読みますか。えらんだ本の記ごと、えらんだ理由について、あとのじょうけんに合わせて書きましょう。なお、く点 (。) やとう点 (、) も字数にふくみます。

〈じょうけん〉

○ その本をえらんだ理由をかくこと
 ○ 「から。」ということばでおわること
 ○ 二十字い上、四十字い内にまとめて書くこと

小学3年国語
 平均正答率 46.0%

「書くことが苦手」というように、漠然とした課題把握では、課題改善はなかなか進みませんね。



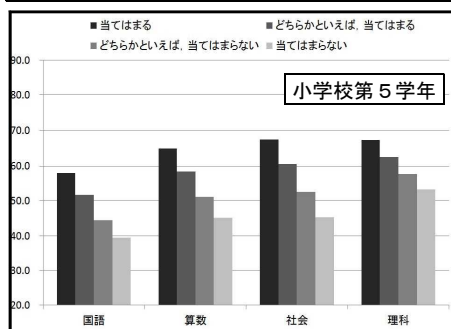
【今後の指導】

算数・数学科においては、算数・数学的用語を用いて、事実、方法、理由や根拠を書くことなどが課題です。また、国語科では、図やグラフなどの非連続型テキストや文章から読み取ったことと自分の考えを関連付けて書くこと、理由や根拠を明確にして自分の考えを書くことなどが課題です。課題改善のためには、書く場を設定するだけでなく、以下のような活動をとおして、それぞれの記述方法についての指導を行う必要があります。

- 分かりやすく書かれている記述を参考に、違う問題場面で書く活動
- 不十分な記述をもとに、話し合ったり、書き換えたりする活動
- 児童生徒同士で、互いに記述したものについて評価する活動

教科の結果と質問紙調査の回答との関係

○ すべての学年・教科において、「授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)が示されている」「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」と感じている児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向が見られる。



「自分の考えを発表する機会」「学級の友達との間で話し合う活動」についても、よく行っていると感じている児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向が見られます。

このような活動を取り入れた授業を行っていくことが大切です。

義務教育課のホームページに掲載している「平成25年度山口県学力定着状況確認問題結果について」には、各設問ごとに、関連するやまぐちっ子学習プリントや過去の調査問題等を紹介しています。計画的に活用していきましょう。

平成25年度学力定着状況確認問題の結果について【概要版】

山口県教育庁義務教育課
平成26年1月

1 実施概要

(1) 目的

児童生徒の客観的な学力状況の経年的な把握と分析を通して、課題解決に向けた指導の工夫改善等の取組の充実を図る全県的な検証改善サイクルを確立し、県内すべての児童生徒の学力の確実な定着と向上を図る。

(2) 実施期日

平成25年10月30日（水） ※学校の状況に応じて、10/28～11/1の期間に実施。

(3) 実施対象及び実施内容

① 小学校

学年	実施人数	内容（時間）
第3学年	11,408人	国語、算数（各教科40分）及び質問紙
第4学年	11,637人	国語、算数（各教科40分）及び質問紙
第5学年	11,940人	国語、算数、社会、理科（各教科40分）及び質問紙
第6学年	12,450人	国語、算数（各教科40分）及び質問紙

② 中学校

学年	実施人数	内容（時間）
第1学年	11,545人	国語、数学（各教科45分）及び質問紙
第2学年	11,736人	国語、数学、社会、理科、英語（各教科45分）及び質問紙

2 教科の問題に関する結果

(1) 平均正答率

① 小学校

学年	国語	算数	社会	理科
第3学年	57.5%	66.0%	—	—
第4学年	61.4%	55.9%	—	—
第5学年	54.6%	61.6%	64.0%	64.9%
第6学年	56.6%	57.2%	—	—

② 中学校

学年	国語	数学	社会	理科	英語
第1学年	54.1%	55.9%	—	—	—
第2学年	47.6%	62.9%	53.5%	48.7%	63.9%

(2) 教科の問題結果から見られる特徴

- 基礎的な内容を問う問題については、おおむね成果が見られるが、記述式の問題や基礎的な内容を問う問題の一部に、依然として課題が見られる。

		主な成果	主な課題（■は問題形式による課題）
小学校	国語	○ 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書いたり、読んだりすること ○ 目的に応じて文章の内容を読むこと	● 国語辞典の正しい使い方を理解すること ● 資料に示されている内容を、文章と関連付けて読むこと ■ 自分の考えを具体的に書くこと 【問題例③】
	算数	○ 加減乗除の計算をすること 【問題例①】 ○ 長さの量感を身に付けること	● 小数の乗法の意味を理解すること ● 面積や体積の量感を身に付けること ■ 理由や根拠、方法などを言葉や式を使って書くこと
	理科	○ 身近な自然現象について観察したことを適切に表すこと	■ 星座早見表など実験器具等を正しく使うこと
	社会	○ 災害から人々の安全を守る関係機関の活動について理解すること	■ 人口の多い市の位置と県内の交通の様子から県の特徴をとらえて書くこと
中学校	国語	○ 文脈に即して漢字を正しく読むこと 【問題例②】 ○ 文の定義を理解すること	● 文脈に即して語句の意味を正しくとらえること ● 文章や資料全体から内容や特徴をとらえること ■ 自分の考えを具体的に書くこと
	数学	○ 分数の計算や加減乗除を含む正の数と負の数の計算をすること ○ 点対称な図形をかくこと	● 方程式を活用して問題を解決する手順を理解すること 【問題例④】 ● 空間図形における長さの関係を見取図から読み取ること ■ 実生活や身の回りの事象を数学的に解決する過程を書くこと
	理科	○ 熱分解により生成される物質について理解すること	■ 誤差を含む実験データをグラフ化し整理すること
	社会	○ 世界の主な海洋の位置と名称を理解すること	■ 資料を参考に、地域の課題を説明すること
	英語	○ 絵を見ながら英文を聞き、状況にあった応答を選択すること	■ 英作文を読み、登場人物になったつもりで、これからの決意を指定された単語数で書くこと

【問題例①】小数の減法の計算について改善状況が見られる。

$$1.1 - 0.28$$

小学算数

4年平均正答率 61.9%

5年平均正答率 63.8%

6年平均正答率 73.1%

※H24全国調査(4.6-0.21の計算)

山口県平均正答率 59.2%

【問題例②】文脈に即して漢字を正しく読むことについては、相当数の生徒ができている。

漢字をひらがなに直しなさい。

○ 承知 (中学1年)

○ 改まって (中学2年)

中学1年国語 平均正答率 87.3%

中学2年国語 平均正答率 92.0%

【問題例③】記述式の問題について、依然として課題が見られる。

○ けいたさんは、とんぼのことがもっと知りたくなくて、学校図書館へ行きました。本のだい名を見ながら、どの本を読もうかまよっていましたが、次の中から読む本を一さつきめました。

本のだい名)

ア トンボ図かん

イ トンボのふしぎ

ウ とんぼ・やご〜くらしとかいかた

エ つくってみよう紙とんぼ

あなたがけいたさんなら、どの本を読みますか。えらんだ本の記ごとと、えらんだ理由について、あとのじょうけんに合わせて書きましょう。なお、く点(。)やとう点(、)も字数にふくみます。

〈じょうけん〉

○ その本をえらんだ理由をかくこと

○ 「から。」ということばでおわること

○ 二十字以上、四十字以内にまとめて書くこと

小学3年国語

平均正答率 46.0%

【問題例④】方程式を活用して問題を解決する手順を理解することに課題が見られる。

解答

姉が出発してから x 分後に弟に追いつくとする。

(中略) $210x = 70(10+x)$

(中略) $x = 5$

$x = 5$ のとき、つくった方程式の左辺と右辺の値はいずれも1050 となり等しいので、 $x = 5$ は、方程式の解である。

姉が出発してから5分後までに姉と弟が進む道のり1050mは、家から駅までの道のり1500mより短いから、姉は弟が駅に着く前に追いつくことができる。

よって、姉が弟に追いつくのは姉が出発してから5分後である。答 5分後

上の解答の [] の部分では、あることがらを調べている。そのことがらについて正しく述べたものを、次の1~4までの中から1つ選び、記号で答えなさい。

1 方程式が、等しい関係にある数量を用いてつくられているかどうかを調べている。

2 方程式の解を問題の答えとしてよいかどうかを調べている。

3 方程式から得られた値がその方程式の解であるかどうかを、その方程式の両辺にその値を代入して調べている。

4 つくった方程式を、等式の性質などを用いて正しく解いているかどうかを調べている。

中学2年数学 平均正答率 58.2%

※H24全国調査の同趣旨の問題

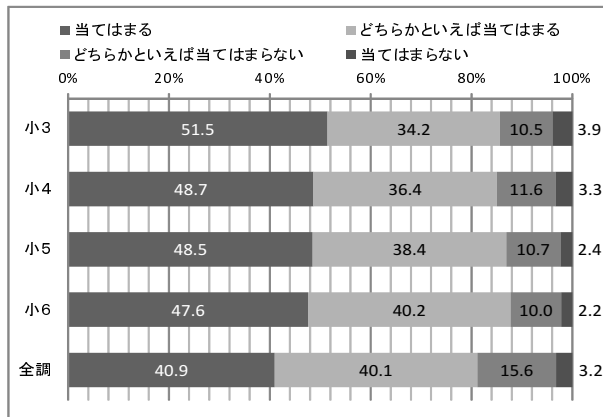
山口県平均正答率 73.4%

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

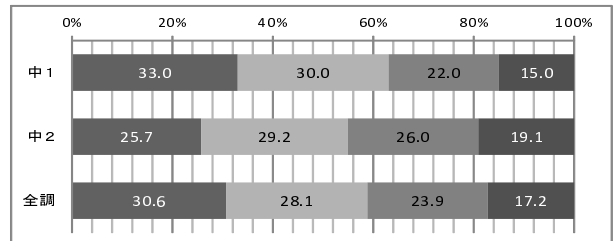
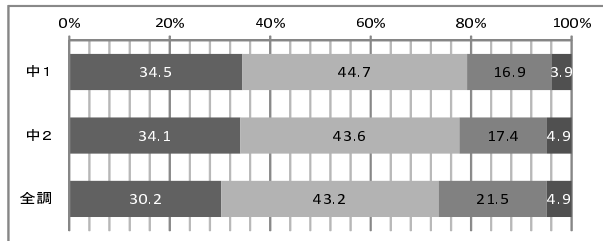
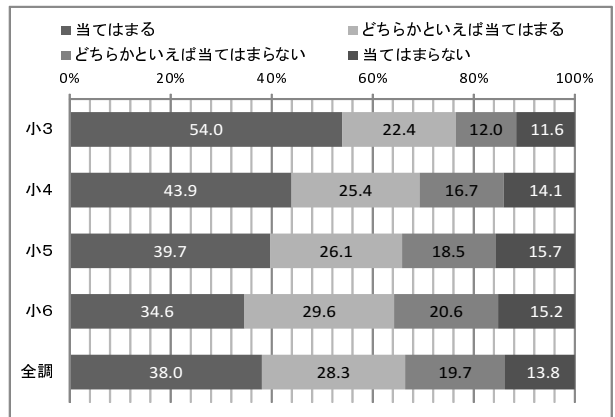
(1) 質問紙調査結果から見られる特徴

- 普段の授業で、「話し合う活動をよく行っている」、「自分の考えを発表する機会が与えられている」と感じている児童生徒の割合が多い。
- 学習意欲や学習習慣に関する質問項目において、学年が進むにつれて、肯定的な回答をした児童生徒の割合が減少する傾向がある。
- 家庭での学習時間については、依然として課題が見られる。

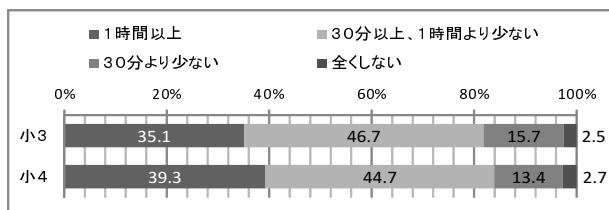
【質問】 普段の授業では、話し合う活動をよく行っていると思う。



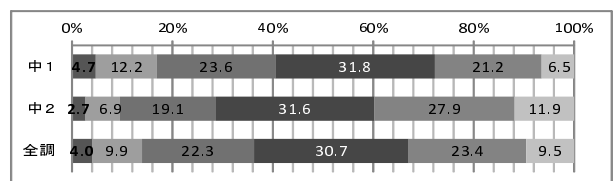
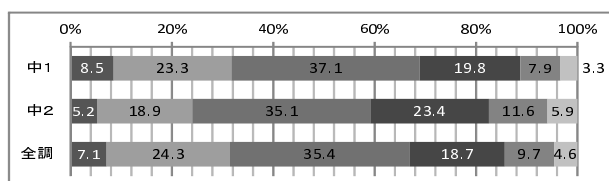
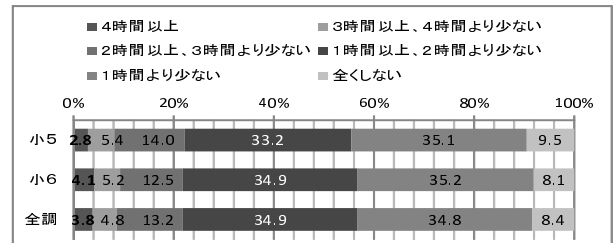
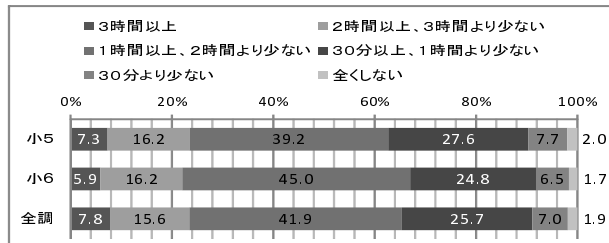
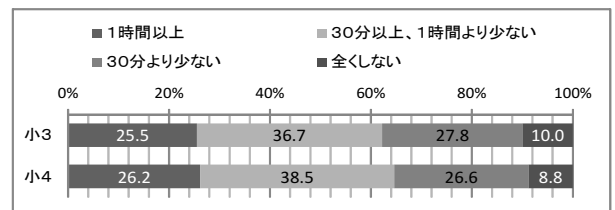
【質問】 算数・数学の勉強は好きだ。



【質問】 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。



【質問】 学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか。

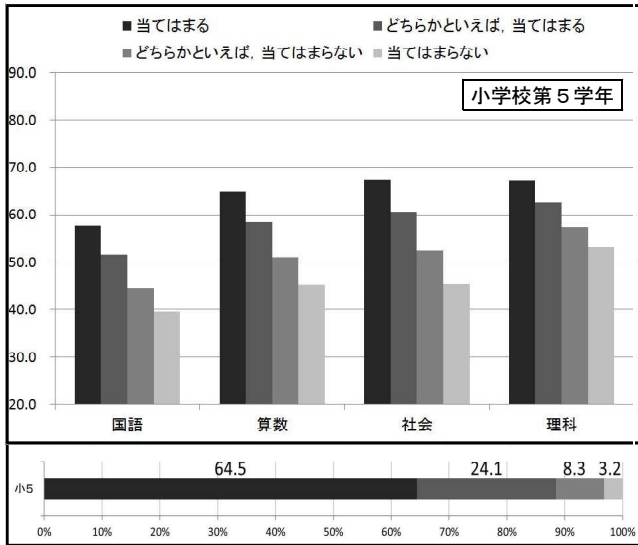


※全調：H25全国学力・学習状況調査における山口県の結果

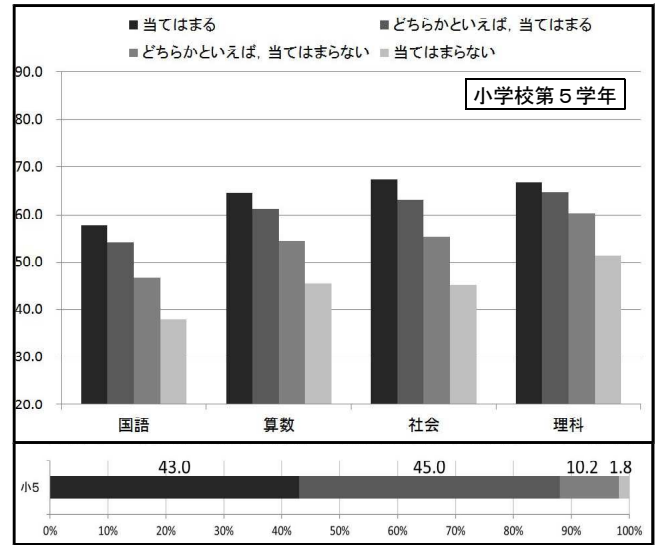
(2) 教科の結果と質問紙調査の回答との関係

- すべての学年・教科において、「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）が示されている」「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」と感じている児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 学習意欲や学習習慣に関する質問項目において、肯定的な回答をした児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向が見られる。
- 授業の中でわからないことがあったとき、「授業が終わってから先生にききに行く」「自分で調べる」と回答した児童生徒の正答率が他の回答より高くなっている。

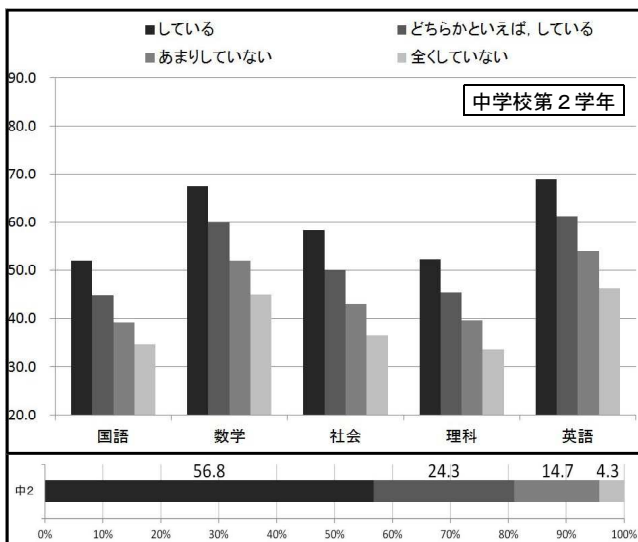
【質問】 普段の授業では、はじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていると思う。



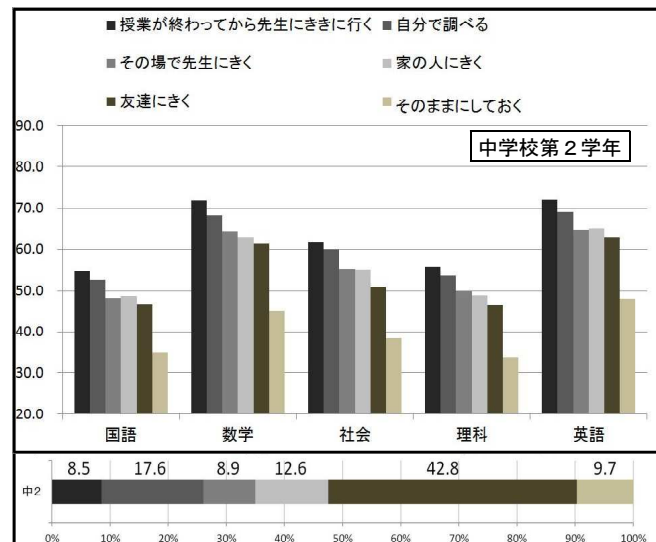
【質問】 普段の授業では、先生の話や友達の意見を最後までよく聞いていると思う。



【質問】 家で、学校の宿題をしていますか。



【質問】 授業の中でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。



※ 上側の棒グラフは質問項目に対する選択肢ごとの教科の平均正答率を、下側の帯グラフはその質問項目に対する回答状況を示している。

結果等の詳細については、山口県教育庁義務教育課ホームページに掲載しています。

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/kakunin/top.html>

4 やまぐちっ子の学力向上に向けて

「やまぐちっ子の学力を育む検証・改善委員会」では、これまでの全国学力・学習状況調査や、「学力定着状況確認問題」の結果等を踏まえ、学校における取組や教育委員会の施策について総合的な検証を行うとともに、今後の一層の取組の充実に向けた提案をまとめました。

今後の取組の一層の充実に向けて【提案】

(1) 学校の組織的な取組(学校の力を伸ばす)

- ① 全教職員の共通理解に基づく全校体制づくりを推進するとともに、小・中連携による学習指導の一層の充実を図る。
- ② 学力や学習状況の客観的・経年的な把握・分析のため「学力定着状況確認問題」を継続実施して、全県的な検証改善サイクルを確立するとともに、「やまぐち学習支援プログラム」の集計・分析システムを活用して課題解決に向けた取組の充実を図る。

(2) 指導方法の工夫改善(授業の力を高める)

- ③ 授業における「課題の提示」「話し合い活動の設定」「振り返りの実施」など、指導のポイントの周知を図り、授業改善を促進する。
- ④ 学級や教科の枠を越えた全教職員によるワークショップ型研修等の機会を充実し、児童生徒の学習意欲の向上に向けた授業改善や学習規律の徹底を図る。
- ⑤ 「授業づくり拠点校」等における研修会の継続と充実を図り、質の高い授業に触れる機会を充実する。
- ⑥ 大きな成果をあげている学力向上推進リーダー・学力向上推進教員を拡充し、授業研究等を通して指導力の向上を図る。

(3) 学習環境の整備(学習環境を整える)

- ⑦ 少人数学級化についての研究を深め、児童生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導体制の一層の充実を図る。
- ⑧ 習熟の程度に応じた指導や補充的・発展的な学習の指導、小学校における教科担任制など学習形態や指導方法を工夫・改善し、児童生徒の実態に応じた効果的な少人数指導の一層の充実を図る。

(4) 学習習慣の確立(学習習慣を身に付ける)

- ⑨ 自主学習や家庭学習の充実に向け、「やまぐち学習支援プログラム」の問題を充実するとともに、児童生徒一人ひとりの学力の状況に応じた活用を促進する。
- ⑩ コミュニティ・スクールや地域協育ネットを活用した地域ボランティアによる学習支援の体制づくり等、学校と家庭、地域が連携した取組の推進を図る。